

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、4 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立白鷗高等学校附属中学校

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

(丸で囲んだ数字がついている言葉には文章のあとに〔注〕があります。)

① 茶の湯は、外国人がもつとも深く興味を抱いている日本文化のひとつ、といってもいいでしょう。その世界は、日本人の「おもてなしの心」で満たされている、おもてなしの心の ② 真髄は茶の湯にある。そういっても過言ではありません。

茶の湯でよく使われる言葉に「一期一会」というものがあります。その人をお迎えするのは、生涯でこのとき。たった一度。二度と戻ってくるのではないかけがえのない時間であるから、精いっぱい思いを込めて、最高のおもてなしをいたしましょう、というのがその意味です。

③ その時間、その瞬間に、おもてなしの心を尽くしきる。茶の湯の所作、 ④ お点前にはそんな思いがこもっています。お湯をわかし、茶を点て、ふるまう。一点のムダもなく、流れるようなその動きは、簡素にして優美という表現がヒタリ。どこまでも ⑤ 理にならなくて、どこまでも美しいのです。こんな所作は茶の湯の世界だけにしかないのではないのでしょうか。

⑥ 利休にはこんな言葉があります。

「叶は良く、叶いたがるは悪しし」

おもてなしの心でいちばん大事なところです。自然にその心が叶う(伝わる)のはよいことだが、無理をしたり、見栄を張ったりして叶い

たがる(伝えようとすること)のはいけない。利休はそういつているのです。所作がこれ見よがしになったり、「してあげている」という思いが透けて見えたら、それは、もう、おもてなしの心とはいえない、ということでしょう。

⑦ きちんと 分をわきまえ、それを ⑧ 逸脱しない範囲で、精いっぱい心を傾ける。おもてなしには、そうした厳しい ⑨ 不文律があるので。それはどこかで日本人の慎ましさと繋がっている。私にはそう思えます。慎ましやかな気持ちがあってはじめて、おもてなしの心は過不足ないものとなるのです。

日本のおもてなしの心のひとつの特徴は「跡を残す」ということではないか、と思います。

お客さまをお迎えするときなど、玄関の前をきれいに掃き、最後に打ち水をして清める。部屋は窓を開け放って、空気を入れ換え、お香などを焚いておく。

いらしたお客さまは、掃き清められ、水が打たれた玄関前に立って、自分を迎えるために相手が尽くしてくれた思いを汲みとります。隅々まで気を配って掃き掃除をしてくれている相手の姿、丁寧に打ち水をしている相手の姿を、瞬時に思い浮かべます。

「ああ、ここまでこまやかな心配りをしてくださったのだな」

清らかな玄関の様子から、相手の心配り、それに沿った行為の「跡」を感じとるのです。

お香も、お客さまが部屋に入るときには、すでにかおりが部屋中に漂っています。そこはかたなくかおっている。行為の「跡」が残っているのです。そこから、相手は自分の好きなかおりのお香を選び、あらかじめ焚いてくれていた、ということに感じ入ることになる。

「あれでもか」「これでもか」と過剰なサービスをすることが「おもてなし」だと勘違いしてはいけません。とくに近頃は「おもてなし」という言葉が少し安易に扱われ、足し算のまちがたおもてなしもどきが横行している気配があります。それは、独りよがりでしかありません。避けたいものです。

けっしてあからさまにしない、これ見よがしでないのが、日本のおもてなしの心です。

「ここまでいたしましたー！」

というところは見せないのです。しかし、相手はそれを察する。この無言のコミュニケーションがおもてなしの真骨頂といってもいいでしょう。言葉にするにしても、ごく短いこんな会話が交わされるだけです。

「お心配りありがとうございます」

「行き届きませんで……」

美しいやりとりだと思いませんか。この奥ゆかしさ、素敵だと思いませんか。日本人のおもてなしの心は、どこまでも静かです。その静けさのなかに、相手に対するいっばいの思いが、心地よくときを過してもらいたい、という丁寧な行為が、ぎっしりと詰まっています。

そもそも、おもてなしは、究極の無私^⑬。「自分を見てほしい」「自分のサービスに感謝してほしい」「これ、いいでしょ」と思っているときには、ほんとうのおもてなしはできていません。

千利休はこんな言葉を残しています。

「茶の湯とは、ただ湯をわかし、茶を点てて、飲むばかりなることを知るべし」

茶の湯はむずかしいものではない。湯をわかして、お茶を点てて、それを飲むだけのことだ、といっている。茶の湯の作法、所作もそれに則ったものでしょう。

茶の湯の作法はどこにも動きのムダがなく、実にシンプルです。しかし、美しいのです。その美しさはどこからくるのでしょうか。

私は「おもてなしの心」だと思っています。ただ湯をわかすことにも、お点前にも、それを差し出す所作にも、おもてなしの心がこもっているのです。

「あなたにおいしいお茶を飲んでいただくために、お湯をわかしましょう。お点前をいたしました。そして、いちばんおいしいところで差し上げましょう」

茶の湯の一連の所作をしているあいだは、ひとことも発することはありません。しかし、無言の内に、その沈黙のなかに、言葉をもってしてもあらわすことのできない、そうした思いが込められています。どの所作もおもてなしの心の表現なのです。

「いま、こちらのお釜でお湯をわかしています。わきましたら、お抹茶を茶碗にこれくらい入れまして、こちらの茶筌を使って点てます。そうですね、時間にして〇分くらいでしょうか……」

所作の一つひとつについてそんな説明をするなどという野暮なことはしないのです。しないからこそ、お茶をいただく側はその無言の所作からおもてなしの心を感じる。そこが日本の文化の深いところです。

茶の湯にかぎらず、ごく日常的な場面でも、食事に招かれた家で自分が好きな食材の料理が次々に出された、といったことがあるはずですが、しかし、招いた側は「お好きな食材をそろえたんですよ」なんてことはいわない。

語らずに伝わるのがほんとうのおもてなしの心。日本人として、まず世界に発信すべきはそのことかもしれません。

(杓野俊明「日本人はなぜ美しいのか」による)

〔注〕

- ① 茶の湯……客を招き、茶を点てて楽しむ会。
- ② 真髓……最もかんじんな点。
- ③ 所作……ふるまい。
- ④ お点前……茶の湯の作法。
- ⑤ 理にかなって……理屈や道理に合っていて。

⑥ 利休……千利休。安土桃山時代の茶人。

⑦ 分をわきまえ……自分の身のほどを承知して。

⑧ 逸脱しない範囲……決められた範囲からそれない。

⑨ 不文律……暗黙のうちに守られている約束こと。

⑩ 横行している……好ましくないものが方々でさかんに行われている。

⑪ 独りよがり……自分の意見押し通そうとすること。

⑫ 真骨頂……本来の姿。

⑬ 無私……欲がないこと。

⑭ 野暮なこと……場の雰囲気をごわすこと。

〔問題1〕 この文章の中で、筆者は「跡を残す」とはどのようなこと

だと説明していますか。本文中の例をあげて百字以内でまとめなさい。

ただし、一まず目から書き始め、記号（、や。や「」なども字数に数えなさい。

〔問題2〕 この文章の中に、「茶の湯の一連の所作をしているあいだ

は、ひとことも発することはありません。」とありますが、筆者はこの理由をどのように説明していますか。本文中の言葉を使って百字以内で書きなさい。

ただし、一まず目から書き始め、記号（、や。や「」なども字数に数えなさい。

〔問題3〕 あなたは将来、海外から日本に来た方にどのような「おもてなし」をしようと思いますか。本文をいまえ、四百字以上四百五十字以内で具体的に書きなさい。

ただし、書き出しや改行などの空らん、記号（、や。や「」なども字数に数えなさい。

